

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成29年6月29日
【事業年度】	第50期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	株式会社コンセック
【英訳名】	CONSEC CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 佐々木 秀隆
【本店の所在の場所】	広島市西区商工センター四丁目6番8号
【電話番号】	(082)277-5451(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 寺本 泰之
【最寄りの連絡場所】	広島市西区商工センター四丁目6番8号
【電話番号】	(082)277-5451(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 寺本 泰之
【縦覧に供する場所】	株式会社コンセック東京支店 (東京都江戸川区中葛西三丁目4番4号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1)連結経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (千円)	8,725,573	10,256,367	10,183,747	10,060,830	10,092,021
経常利益 (千円)	81,414	299,679	310,991	181,735	157,922
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	53,738	322,766	282,967	63,635	83,827
包括利益 (千円)	243,090	489,167	468,822	86,942	102,716
純資産額 (千円)	6,886,403	7,319,549	7,845,566	7,701,556	7,692,236
総資産額 (千円)	11,179,255	11,621,891	11,893,217	11,613,070	11,542,247
1株当たり純資産額 (円)	369.23	391.52	416.93	411.18	419.93
1株当たり当期純利益金額 (円)	2.94	17.69	15.51	3.49	4.62
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.3	61.5	64.0	64.6	65.3
自己資本利益率 (%)	0.8	4.7	3.8	0.8	1.1
株価収益率 (倍)	35.0	7.0	15.9	43.8	34.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	80,211	124,892	451,077	318,964	238,301
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	166,864	36,682	181,407	152,461	63,586
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	57,714	18,943	416,667	84,385	313,970
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	956,823	1,117,261	983,775	1,060,888	1,039,939
従業員数 (人)	431	443	445	456	450
(外、平均臨時雇用者数)	(79)	(77)	(78)	(72)	(63)

(注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 単位未満を四捨五入で表示しております。以降も特に注書が無い場合、同様であります。ただし、合計金額は必ずしも一致しません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (千円)	7,457,603	8,226,242	8,274,464	8,013,912	8,105,500
経常利益 (千円)	81,495	275,421	332,133	169,338	67,216
当期純利益 (千円)	98,328	285,260	335,502	18,707	42,713
資本金 (千円)	4,090,270	4,090,270	4,090,270	4,090,270	4,090,270
発行済株式総数 (千株)	18,640	18,640	18,640	18,640	18,640
純資産額 (千円)	6,660,402	7,013,227	7,463,870	7,371,572	7,319,564
総資産額 (千円)	10,265,905	10,405,497	10,667,462	10,416,896	10,327,693
1株当たり純資産額 (円)	364.92	384.38	409.15	404.16	407.89
1株当たり配当額 (円)	-	2.00	3.00	3.00	3.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純損益金額 (円)	5.39	15.63	18.39	1.03	2.35
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.9	67.4	70.0	70.8	70.9
自己資本利益率 (%)	1.5	4.2	4.6	0.3	0.6
株価収益率 (倍)	-	7.9	13.4	-	66.8
配当性向 (%)	-	12.8	16.3	-	127.7
従業員数 (人)	221	213	222	229	236
(外、平均臨時雇用者数)	(13)	(15)	(16)	(13)	(13)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第46期及び第49期の株価収益率については、当期純損失のため記載しておりません。

4. 第49期の配当性向については、当期純損失のため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和42年11月	広島市河原町に資本金50万円で建設サービス株式会社（現、株式会社コンセック）を設立し、アンカー工事と建設資材の販売を開始。
昭和44年6月	水島営業所を開設。
昭和45年10月	スタッドジベル工法を採用し、橋桁H鋼および建築鉄鋼へのジベル筋瞬間溶接工事を開始。
昭和46年8月	岡山営業所を開設。
昭和47年3月	本社を広島市舟入中町に移転。
昭和51年10月	建設機械の製造販売を目的とした発研株式会社を設立、同時に資本参加し関係会社とする。
昭和54年2月	東京営業所を開設。
昭和55年8月	本社社屋を広島市西区商工センターに新築移転。
昭和55年8月	広島営業所を開設。営業所店舗は10店舗となった。
昭和58年12月	大阪営業所を開設、貿易部門を併設。
昭和59年8月	当社ブランド名「モーリーアンカー」の卸販売を開始。
昭和63年10月	発研株式会社を吸収合併。
平成元年12月	広島配送センターを開設。
平成2年4月	社名を株式会社コンセックに変更。
平成2年11月	株式を店頭登録により公開。
平成3年7月	札幌営業所を新築移転。
平成3年12月	広島工場を新設。（電動工具等の製造）
平成5年4月	広島営業所を新築移転。
平成7年3月	スイス・フラン建転換社債発行。（発行総額25百万スイス・フラン）
平成8年10月	2百万株の公募増資実施。スイス・フラン建転換社債の転換完了。（資本金4,090百万円）
平成11年2月	祥建企業股份有限公司（台湾）に資本参加し関係会社とする。
平成13年12月	北斗電気工業株式会社に資本参加し関係会社とする。
平成16年6月	南通康賽克工程工具有限公司（中国）を設立し関係会社とする。
平成16年7月	株式会社サンライフを設立し関係会社とする。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成18年4月	株式会社デンサンに資本参加し関係会社とする。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現 東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場。
平成24年4月	南通康賽克半導体工具有限公司（中国）を設立し関係会社とする。
平成25年1月	山陰建設サービス株式会社の株式取得により関係会社とする。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場。

### 3【事業の内容】

当社の企業集団は株式会社コンセック（当社）、子会社8社（祥建企業股份有限公司（在外子会社）、南通康賽克工程工具有限公司（在外子会社）、南通康賽克半導体工具有限公司（在外子会社）、北斗電気工業株式会社（国内子会社）、株式会社サンライフ（国内子会社）、株式会社デンサン（国内子会社）、山陰建設サービス株式会社（国内子会社）、建設サービス島根株式会社（国内子会社）及び関連会社1社（南通偉秀精密机械有限公司（在外関連会社））並びにその他の関係会社1社で構成されております。

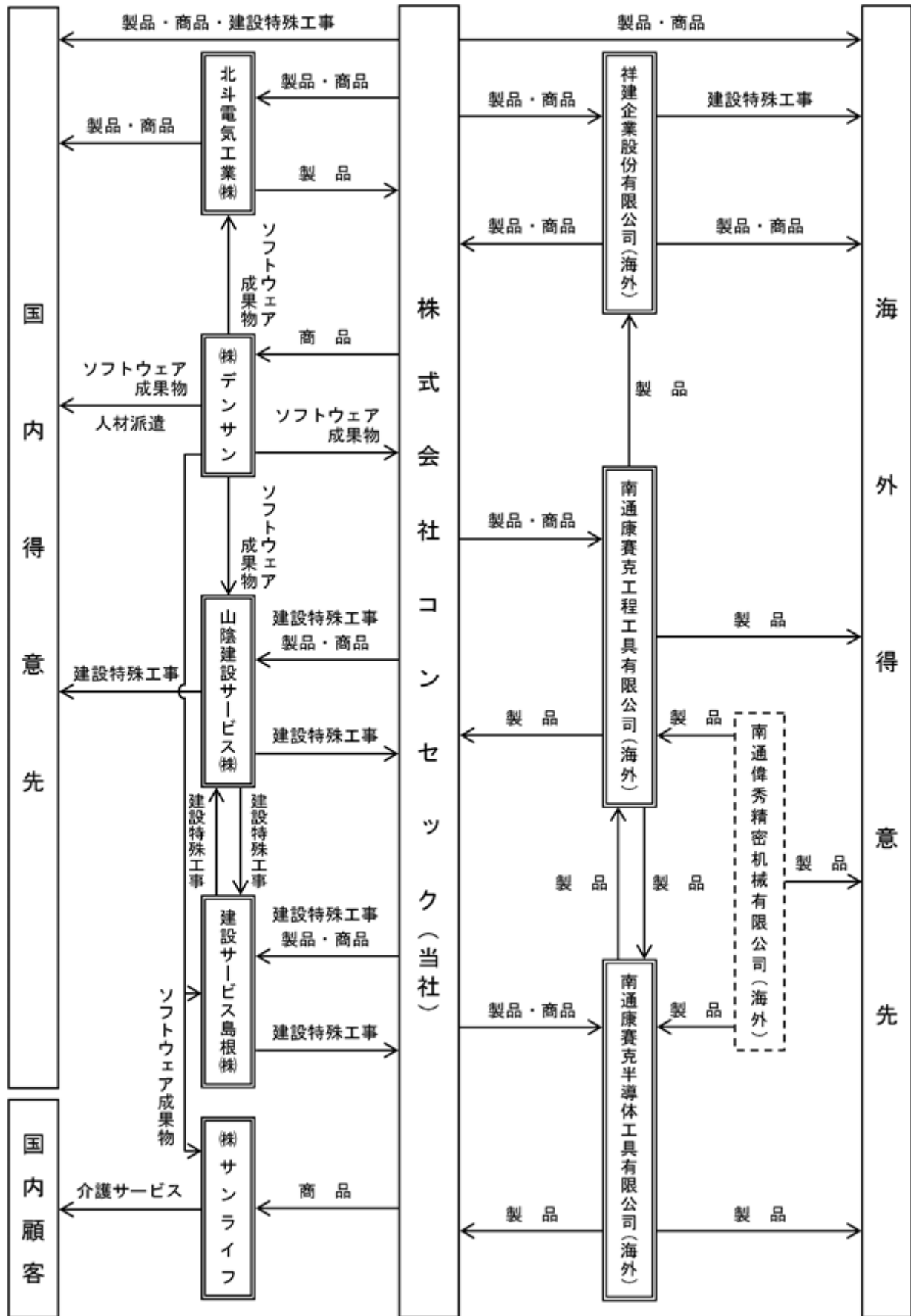
主たる業務は、当社及び祥建企業股份有限公司は穿孔・切断機器、ダイヤモンド切削消耗品の製造、販売及び建設資材・工具の販売並びに建設特殊工事請負、南通康賽克工程工具有限公司及び南通偉秀精密机械有限公司は、穿孔・切断機器の製造・販売、南通康賽克半導体工具有限公司はダイヤモンド切削消耗品の製造・販売、北斗電気工業株式会社は自動制御盤、配電盤の製造・販売、山陰建設サービス株式会社及び建設サービス島根株式会社は建設特殊工事請負、株式会社サンライフは介護事業、株式会社デンサンはソフトウェアの受託開発事業であります。

事業内容及び当社と各子会社・関連会社の当該事業に係る位置付け並びにセグメントとの関連は、次のとおりであります。

なお、事業区分はセグメントと同一であります。

区分		主要品目	会社
切削機 具事業	穿孔・切断機器	コアドリル、ウォールカッター、ハンドカッター、ワイヤーソー、プランジカッター	当社・在外子会社 ・在外関連会社
	ダイヤモンド切削消耗品	ダイヤモンドコアビット、ダイヤモンドブレード、ダイヤモンドワイヤー	当社・在外子会社
	特注機及び切削関連機具	自動送り装置、油圧ユニット、ハードトランス、光ファイバーケーブル敷設ロボット、路面研削機、グルーピングカッター	当社・在外子会社 ・在外関連会社
特殊工事業業		アンカー工事、ダイヤ穿孔・切断工事、ワイヤーソー工事、ジベル工事、防水工事、研削工事、防煙工事	当社・国内子会社 ・在外子会社
建設・ 生活関 連品事 業	建設機械・工具	コンプレッサー、ホイス、チェンブロック、グラインダー、パンチャー、鋸金工作機、ボール盤、レーザー加工機、フライス盤、NC旋盤	当社
	建設資材	コンクリートアンカー類、ケミカルアンカー類、ボルト・ナット類、ビス、ドライバー、ハンマー、安全靴、保護メガネ、砥石、タップ、チップ、スケール、ゲージ、ノギス、レーザーレベル	当社・在外子会社
	住宅、OA機器及び生活関連機器・施設賃貸	物置、カーポート、パソコン、ファクシミリ、テレビ、エアコン、衣料品、寝具、皮革製品、貴金属製品、不動産の賃貸	当社・在外子会社
工場設備関連事業		自動制御盤、配電盤、製缶、精密板金加工	国内子会社
介護事業		デイサービス、ケアプランサービス、介護付有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅	国内子会社
IT関連事業		ソフトウェア成果物、人材派遣	国内子会社

事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

会社の名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 祥建企業股份有限公司	台湾新北市	千NT\$ 12,000	切削機具事業 特殊工事業 建設・生活関連品事業	63.6	役員の兼任 当社役員中2名がその役員を兼務しております。 営業上の取引 当社製品の販売及び同社の製品を当社が販売しております。
(連結子会社) 北斗電気工業株式会社	広島県呉市	千円 80,000	工場設備関連事業	89.7	役員の兼任 当社役員中3名がその役員を兼務しております。 営業上の取引 当社商品の販売及び同社の製品を当社の製品材料として仕入をしております。
(連結子会社) 南通康賽克工程工具有限公司	中華人民共和国江蘇省南通市	千人民元 10,855	切削機具事業	77.3	役員の兼任 当社役員中4名がその役員を兼務しております。 営業上の取引 当社商品・製品の販売及び同社の製品を当社が販売しております。
(連結子会社) 株式会社サンライフ	広島市西区	千円 360,000	介護事業	83.3	役員の兼任 当社役員中3名がその役員を兼務しております。 資金の援助 運転資金285,540千円の融資をしております。 営業上の取引 当社商品の販売をしております。
(連結子会社) 株式会社デンサン	広島市南区	千円 50,000	I T 関連事業	97.5	役員の兼任 当社役員中2名がその役員を兼務しております。 営業上の取引 当社商品の販売及び同社のソフトウェア成果物を当社に販売しております。

会社の名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 南通康賽克半導体 工具有限公司	中華人民共 和国江蘇省 南通市	千人民元 23,834	切削機具事業	80.0	役員の兼任 当社役員中4名がその役員を兼務して おります。 営業上の取引 当社商品・製品の販売及び同社の製品 を当社が販売しております。
(連結子会社) 山陰建設サービス 株式会社	鳥取県米子 市	千円 10,000	特殊工事業	95.0	役員の兼任 当社役員中3名がその役員を兼務して おります。 営業上の取引 当社商品・製品の販売、特殊工事の受 注及び同社への特殊工事を発注して おります。
(連結子会社) 建設サービス島根 株式会社	島根県松江 市	千円 5,000	特殊工事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 当社役員中1名がその役員を兼務して おります。 営業上の取引 当社商品・製品の販売、特殊工事の受 注及び同社への特殊工事を発注して おります。
(持分法適用関連会 社) 南通偉秀精密机械 有限公司	中華人民共 和国江蘇省 南通市	千人民元 2,000	切削機具事業	24.0 (24.0)	役員の兼任 当社役員中2名がその役員を兼務して おります。

(注) 1. 「事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

会社の名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の被所有割合(%)	関係内容
(その他の関係会 社) 日本鉱泉株式会社	広島市安佐 南区	千円 20,000	清涼飲料水 製造販売	15.1	役員の兼任 当社役員中2名がその役員を兼務して おります。 営業上の取引 当社商品の販売及び同社の製品を当社 が販売しております。



## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
切削機具事業	145 (7)
特殊工事事業	88 (4)
建設・生活関連品事業	76 (3)
工場設備関連事業	33 (8)
介護事業	49 (39)
IT関連事業	45 (2)
全社(共通)	14 (-)
合計	450 (63)

(注)1.従業員数は、就業人員(当社グループ外からの出向者を含む)であり、臨時雇用者数(契約社員)は( )内に外数で記載しております。

2.全社(共通)として、記載している従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2)提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
236 (13)	44.2	17.1	4,394,952

セグメントの名称	従業員数(人)
切削機具事業	98 (6)
特殊工事事業	50 (4)
建設・生活関連品事業	74 (3)
全社(共通)	14 (-)
合計	236 (13)

(注)1.従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数(契約社員)は( )内に外数で記載しております。

2.平均年間給与は、税込支払給与額であり、基準外賃金及び賞与を含めております。

3.全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3)労働組合の状況

当社グループにおいて、労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府や日銀の金融政策や、それに伴う円安基調により輸出産業を中心に好景況感も感じられる様になりました。また、雇用・所得が着実に改善するなど景気は緩やかではありますが回復基調に推移いたしました。

土木建設業界におきましても、公共投資が底堅く推移し、民間設備投資は好景況感を背景に合理化・省力化へのニーズの高まり等もあり、増加傾向で推移いたしました。土木建設需要の高まりに伴う人材不足及び労務費、資材等の高騰がつづく状況となりました。

このような環境の下、当社グループでは、土木建設事業を中核分野とし、インフラ関連、耐震工事等の特殊工事及びそれに必要な機具機材の需要に対応して参りました。きめ細かい営業活動を推進し生活関連・建設関連資材等の提案営業にもまい進してまいりました。また、グループ企業間のシナジー効果をより一層高めるため、グループ企業間の連携も高めるよう努力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は100億92百万円と前連結会計年度に比べ31百万円(0.3%増)となりました。損益面におきましては、人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加により営業利益は1億2百万円(前連結会計年度比24.9%減)、経常利益は1億58百万円(前連結会計年度比13.1%減)と前年を下回りました。親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等合計額が増加したものの、固定資産売却益62百万円を計上したことにより84百万円(前連結会計年度比31.7%増)となりました。

セグメント別売上高の概況は次のとおりであります。(セグメント間の内部売上高は含めておりません。)

#### [ 切削機具事業 ]

コアビット・ワイヤー等の消耗品の需要は増加したものの、コアドリル等の需要が低調に推移したため、売上高は32億27百万円(前連結会計年度比2.3%減)となりました。原価低減等に努めましたが、人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加により、セグメント利益(営業利益)は2億36百万円(前連結会計年度比9.5%減)となりました。

#### [ 特殊工事業 ]

人手不足等による工事進捗の遅れの影響等があったものの、下期における受注増加により、売上高は20億65百万円(前連結会計年度比0.8%増)となりました。また、原価低減に努め、セグメント利益(営業利益)は1億63百万円(前連結会計年度比4.1%増)となりました。

#### [ 建設・生活関連品事業 ]

建設関連の顧客への工具及び建設資材の売上増加及び年度後半の展示会での売上の増加により、売上高は34億43百万円(前連結会計年度比0.3%増)となりました。人件費を含む販売費及び一般管理費の増加により、セグメント利益(営業利益)は71百万円(前連結会計年度比34.3%減)と前年を下回りました。

#### [ 工場設備関連事業 ]

主要顧客からの受注の増加、また、第2工場の稼働率向上も相まって、売上高は6億36百万円(前連結会計年度比27.9%増)となりました。原価低減にも努め、セグメント利益(営業利益)は23百万円(前連結会計年度は営業損失28百万円)となりました。

#### [ 介護事業 ]

介護利用者の増加を目指し営業活動をしたもののデイサービスの介護報酬の減額により、売上高は4億6百万円(前連結会計年度比6.4%減)となりました。また、生活介護(障がい者デイサービス)の設備投資等もあり、セグメント損失(営業損失)は43百万円(前連結会計年度は営業損失38百万円)となりました。

#### [ IT関連事業 ]

販売管理用パッケージソフト及び受託開発の受注増に努めましたが、売上高は3億16百万円(前連結会計年度比8.8%減)となりました。販売費及び一般管理費の節減に努め、セグメント利益(営業利益)は7百万円(前連結会計年度比137.6%増)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下、資金という）は前連結会計年度末に比べて、21百万円減少し、10億40百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は2億38百万円（前連結会計年度は3億19百万円）となりました。

税金等調整前当期純利益2億51百万円、減価償却費1億40百万円、退職給付に係る負債の増加額17百万円等収入の一方で、売上債権の増加額81百万円、退職給付に係る資産の増加額3百万円、法人税等の支払額99百万円等に使用したことが主な要因であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果獲得した資金は64百万円（前連結会計年度は1億52百万円の使用）となりました。

これは主に投資有価証券の売却による収入1億48百万円が取得による支出1億11百万円を37百万円上回ったこと、有形固定資産の売却による収入2億円が取得による支出1億85百万円を15百万円上回ったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は3億14百万円（前連結会計年度は84百万円）となりました。

これは主に配当金の支払額55百万円、自己株式の取得による支出44百万円、短期借入金の純減少額39百万円、長期借入金の返済による支出4億3百万円が借入による収入2億40百万円を1億63百万円上回ったこと等によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比(%)
切削機具事業(千円)	770,992	656,624	85.2
特殊工事業(千円)	-	-	-
建設・生活関連品事業(千円)	-	-	-
工場設備関連事業(千円)	432,186	505,520	117.0
介護事業(千円)	-	-	-
IT関連事業(千円)	239,217	227,555	95.1
合計(千円)	1,442,395	1,389,699	96.3

(注) 1. 上記金額は製造原価によっており、セグメント間の取引は相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品・製品仕入実績

当連結会計年度の商品・製品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比(%)
切削機具事業(千円)	1,522,069	1,441,615	94.7
特殊工事業(千円)	-	-	-
建設・生活関連品事業(千円)	2,775,961	2,823,255	101.7
工場設備関連事業(千円)	32,207	31,437	97.6
介護事業(千円)	-	-	-
IT関連事業(千円)	-	-	-
合計(千円)	4,330,237	4,296,308	99.2

(注) 1. 上記金額は仕入価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループは製品については、見込生産を中心に行っているため、また、特殊工事業につきましても、施工工事は工期が短く1件当たりの受注金額が僅少であるため、受注高の総合的な把握は行っておりませんので、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	前年同期比(%)
切削機具事業(千円)	3,302,289	3,226,671	97.7
特殊工事業(千円)	2,048,330	2,065,353	100.8
建設・生活関連品事業(千円)	3,433,354	3,442,501	100.3
工場設備関連事業(千円)	496,944	635,823	127.9
介護事業(千円)	433,701	405,849	93.6
IT関連事業(千円)	346,213	315,824	91.2
合計(千円)	10,060,830	10,092,021	100.3

(注) 1. 上記金額は外部顧客に対する売上高であり、セグメント間の内部売上高は含まれておりません。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

##### 会社の経営の基本方針

当社グループは「最高の信用」「最高の技術」「最高の品格」の経営理念のもと、土木建設工事分野における安全性と生活環境に留意した新製品・新技術の開発により社会の繁栄に貢献すると同時に、社会の一員として法令遵守に努め、かつ安定的な適正利益を生み出し続ける事により、株主・取引先・従業員の皆様とともに喜びを分かち事を基本方針としております。

##### 目標とする経営指標

当社グループは株主価値を高めるためには株主資本利益率（ROA）の増加による資本効率の向上への努力が重要と認識しております。現在は安定的な収益体質の確立に取り組んでおり、安定的な収益見通しが確立後に目標とする経営指標値を設定したいと考えております。

#### (2) 当社グループの現状の認識及び経営環境

当連結会計年度の業績は工場設備関連事業で第二工場の稼働等の向上等で売上が増加し、全体では前連結会計年度に比べ、売上が0.3%増加しました。利益面におきましては、人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加もあり、営業利益及び経常利益は、それぞれ24.9%及び13.1%減少しました。今後は、景気動向に左右されない、安定的な収益体質を確立することが最優先の課題であると考えております。今後の我が国の経済環境は、昨年のイギリスEU離脱問題、アメリカでのトランプ大統領誕生、今年のフランス大統領選挙等、海外の政治経済情勢の不確実性の高まりにより、金融資本市場の大幅な変動の影響等による不透明な状況が続くものと思われれます。一方、国内における企業収益の改善、雇用・所得環境の改善等により、景気は穏やかに回復を続けるものと予想されます。当社事業分野においても、耐震・防災対策を中心にインフラの再整備が、また民間の設備投資も継続的に活性化していくものと思われれます。また、労働力人口の不足に伴い人口知能の活用や情報通信技術・コンピュータ技術等の活用が各事業分野で進むものと思われれます。この様な経済環境の中、当社グループは更なる売上増と安定した黒字化を目指してまいります。特に苦戦を強いられている事業分野の早期黒字化を目指します。以上のようなことを考慮し各事業分野に、以下のとおり対処すべき課題を設定し対応してまいります。

#### (3) 当面の対処すべき課題の内容

##### 切削機具事業

- ・既存の切削機具製品類の需要増加に対応します。
- ・各種土木施設等の改修・耐震対策に使用される機具機材を開発し提供してまいります。
- ・都市部での無電柱化に対応する装置の市場投入を急ぎます。
- ・土木・建設分野以外にも、蓄積した技術ノウハウを応用し新しい事業分野にも進出します。
- ・各種機具に使用する消耗品の自社生産も拡大してまいります。

##### 特殊工事業

- ・広範囲でかつ大規模な工事受注を志向します。
- ・施工提案から始めて一貫した施工体制を確立します。
- ・ゼネコンとの工法の共同開発を進めてまいります。
- ・鉄鋼関連等をはじめとする民間企業からの特殊需要に対応してまいります。
- ・人員の拡充、人材の育成を強化します。

##### 建設・生活関連品事業

- ・既存商材及び顧客の囲い込みを進めてまいります。
- ・客先のニーズを捉えた提案営業活動とそれに則した商品開発に努めてまいります。
- ・仕入れルートの効率化、販売体制の効率化等による原価低減を進めてまいります。

##### 工場設備関連事業

- ・既存顧客へのシェア向上を図ってまいります。
- ・蓄積した技術に基づき、新規顧客開拓を進めてまいります。
- ・効率的な材料調達、効率的な生産体制を確立して原価低減を進めてまいります。
- ・第2工場の稼働率の向上に努めます。
- ・自社製品以外の商品類の取扱の拡充に努めます。

#### 介護事業

- ・サービス付高齢者住宅においては、住宅の入居率の向上に努めます。
- ・生活介護（障がい者支援）事業の安定運営に努めます。
- ・全体的な意志疎通を図り、社員の定着率向上に努めます。
- ・収益性を考慮し、事業所の統廃合等を検討し、速やかに安定的な収益体質の確立を目指します。

#### IT関連事業

- ・SE部隊を強化して受注案件の増加を目指します。
- ・需要のあるWEB系並びにCAD/CAM系の開発能力を高めていきます。
- ・自社開発の販売管理用パッケージソフトのカスタマイズ化により、売上と利益の確保を図ります。

#### (4) 対処方針

経営会議の中でテーマ別分科会を設定し、各責任者が定期的に会議を開催し、問題点に対処するとともに議論をつくした決定事項を経営会議に図り迅速な判断のもとに課題に対処する所存であります。

## 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項には、以下のようなものがあります。なお、当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で発生の回避に努める所存であります。本項については、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

#### (1) 特殊工事の安全対策について

当社はダイヤモンド切削機具を用いて、耐震工法・免震工法による構造物の切断解体を行っており、特殊工事は重量物の搬送・移動が伴うため工事に際して十分な指導と安全対策を実施しておりますが、工事内容は個々に異なり全ての点で安全を保障できるものではありません。そのために損害保険等に加入するなどの対応をしておりますが当該保険の免責事項や限度額超過に該当する損害が発生した場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 製品・部品の海外生産による業績への影響について

当社グループは、中国江蘇省南通市に設立した子会社2社において、ダイヤモンド切削関連機具、切削消耗品の製造・販売を行い厳格な品質管理を行っておりますが、中国国内で調達する部品等が必要完成度に達していない場合や、当該国の政治的変動や法令の規制等が発生した場合などにより、製造の遅れが発生した場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社はダイヤモンド切削機具に関わる工業所有権を有しており、その一部は米国・台湾・韓国等にも登録済みであり、今後も拡大していく方針であります。中国をはじめとする新興地域国における申請・登録が、当局の事情等により円滑に進まない場合、将来の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 減損会計について

当社グループの資産のグルーピングは事業用資産については営業所単位に、賃貸用資産については個別にグループ化しております。今後は、営業所収益の著しい悪化、賃貸用資産については賃料の改定等、また土地の市場価格の著しい下落等で減損損失が生じる可能性があります。その結果、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 顧客情報管理について

当社グループは製品・商品の製造・販売及び工事並びに介護事業・IT関連事業における顧客情報を有しております。顧客情報の管理には万全を期しておりますが、万一それらの情報が外部に漏洩した場合には、当社グループの信用低下により、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループの研究開発は、当社技術製造部を主体として工事・販売の関連部門等から広く情報を収集しながら、建設工事等に係る新施工技術及び新製品開発・改良の研究活動を行っております。

現在の研究開発スタッフは、グループ全員で13名在籍し、これは総従業員の2.9%に相当しております。当連結会計年度における事業の種類別セグメントごとの研究目的、主要課題、研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度の研究開発費は116,011千円となっております。

### (1) 切削機具事業

鉄筋コンクリートに穴あけ・切断をする工具機器等を研究開発する目的で活動を行った結果、主な成果は次のとおりで、研究開発費は116,011千円であります。

#### 乾式ビット MD 2 7～12” の開発

従来販売していました6”以下の乾式ビットMD 2を、子会社の南通康賽克半導体工具有限公司と共同で製品化したオリジナルダイヤモンド工具です。

#### S V ワイヤー P <プレミアム>・D <ドライミスト・乾式兼用>・E <電着(乾湿兼用)> の開発

Pは、様々な被削物に対応する為に、切削速度と寿命に優れた高性能品として新開発しました。

Dは、切削水を使わないワイヤーソーイング工法に適した専用品としてモデルチェンジしました。

Eは、鉄のみでも切断可能な電着(電気メッキ)タイプのダイヤモンドワイヤーとして新開発しました。

#### コアドリル S P J - 1 2 3 C の開発

乾式切断時のオイルシールの耐久性を向上させた、乾湿兼用のコアドリルとしてモデルチェンジしました。

#### 乾式用スイベル S C ロッドねじ - C ロッドねじ の開発

S P J 専用ショート軸タイプの乾式用スイベルとして新開発しました。

#### S P J 用乾式コアビット ドライワン C ロッドねじ の開発

子会社の南通康賽克半導体工具有限公司と共同で製品化したオリジナルダイヤモンド工具です。

薄刃チップの採用によりコア折れした時にコアが詰まりにくくなっています。

#### 充電油圧プレス B P - 8 . 5 T の開発

手動油圧プレスに変わる、電動なのでスイッチ操作のみでスピーディなワイヤー接合作業が行える充電油圧プレスとして新開発しました。

#### 連続穴用架台 L A の開発

ウォールカッターによるブレード切断工事での端部切り残しR部を仕上げる時に、トラックレールL Aで使用するコアドリル用の連続穴施工架台として新開発しました。

### (2) 特殊工事業

当連結会計年度において該当する研究開発活動はありませんでした。

### (3) 建設・生活関連品事業

当連結会計年度において該当する研究開発活動はありませんでした。

### (4) 工場設備関連事業

当連結会計年度において該当する研究開発活動はありませんでした。

### (5) 介護事業

当連結会計年度において該当する研究開発活動はありませんでした。

### (6) I T 関連事業

当連結会計年度において該当する研究開発活動はありませんでした。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の連結財務諸表は、金融商品取引法の規定及び我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成されており、財政状態及び経営成績に関する以下の分析が行われております。

当社経営陣は、連結財務諸表の作成に際し決算日における資産・負債の報告数値及び報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行わなければなりません。経営陣は、貸倒引当金、たな卸資産、固定資産、退職給付に係る負債等に関する見積り及び判断に対して、継続的に評価を行っております。経営陣は過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要素に基づき、見積り及び判断を行っております。

実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。当社では、特に以下の重要な会計方針が、当社の連結財務諸表の作成において使用される当社の重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。本項については、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

#### 収益の認識

当社グループの売上高は通常は顧客に対して商・製品が出荷された時点、工事売上に関しては当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準、その他の工事については工事が完成した時点で計上されます。特定のケースでは、注文書で顧客の検査に合格することが要求されており、その場合は顧客が当社グループの商・製品を検収した時点で売上を計上しております。不動産賃貸収入は、契約書に基づき、月単位で収益を計上しております。

#### 貸倒引当金

当社グループは顧客の支払不能時に発生する損失の見積額について、貸倒引当金を計上しております。顧客の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる可能性があります。

#### たな卸資産

当社グループは、たな卸資産の市場状況に基づく時価の見積額と取得原価との差額に相当する額について、評価損を計上しております。実際の将来需要又は市場状態が見積りより悪化した場合、追加の評価損が必要となる可能性があります。

#### 投資有価証券の減損

当社グループは、余資運用の一環として、業務上の関係を有する企業等の株式を所有しております。これらの株式には価格変動性が高い上場会社の株式と、株価の決定が困難である非上場会社の株式が含まれております。当社グループでは上場会社の株式への投資の場合、期末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%未満の下落の場合、下落継続期間等総合的に検討し時価の回復可能性無しと判断した場合、減損処理を行っております。非上場会社への投資の場合、実質価額が取得原価に比べて50%程度以上低下し回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、減損処理を行っております。将来の市況悪化又は投資先の業績不振により、現在の簿価に反映されていない損失又は、簿価の回収不能が発生した場合の評価損の計上が必要となる可能性があります。

#### 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、当該資産が将来の税金負担額を軽減する効果を評価するに当たっては、将来の課税所得及び慎重かつ実現可能性の高い継続的な税務計画を検討し、繰延税金資産の全部又は一部を将来回収できないと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産の調整額を費用として計上します。同様に計上金額の純額を上回る繰延税金資産を、今後回収できると判断した場合、繰延税金資産への調整により当該判断を行った期間に利益を計上することになります。

#### 退職給付に係る負債

当社は従業員の退職給付に備えるため、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を採用しており、国内子会社の一部については、退職一時金制度を採用しております。退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には割引率、退職率、近年の統計数値に基づいて算出される死亡率及び年金資産の長期収益率などが含まれます。実際の結果が前提条件と異なる場合又は、前提条件が変更された場合、その影響は累積され将来にわたって定期的に認識されるため、将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。割引率の低下及び年金資産運用での損失は当社グループの退職給付費用に対して悪影響を及ぼします。同様に割引率の上昇及び年金資産運用での収益は退職給付費用に好影響を与えます。過去勤務費用及び数理計算上の差異の償却は退職給付費用の一部を構成しておりますが、当社グループでは、過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）により均等償却しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定率法によりそれぞれ発生翌連結会計年度から損益処理しております。



## (2) 業績報告

### 概要

当連結会計年度は、下半期の円安、株高により輸出産業を中心に景況感も上昇しました。また、雇用所得が着実に改善するなど景気は回復基調に推移いたしました。

土木建設業界におきましても、公共投資、民間設備投資とも、底堅く推移しましたが、土木建設需要の高まりに伴う人材不足及び労務費の高騰がつづく状況となりました。このような状況のもと、当連結会計年度の売上高は前連結会計年度に比べ31百万円増の100億92百万円となりました。利益面では前連結会計年度に比べ営業利益では34百万円減の1億2百万円、経常利益は24百万円減の1億58百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は法人税等合計で前連結会計年度に比べ41百万円増の1億68百万円を計上したものの、固定資産売却益62百万円を計上したことにより、20百万円増の84百万円となりました。

### 売上高

当連結会計年度のセグメント別売上高は、「切削機具事業」では、インフラ整備・耐震工事向けの切削消耗品等の売上が好調であった反面、コアドリル等の売上が減少し、前連結会計年度に比べ76百万円減の32億27百万円となりました。「特殊工事事業」は、人員不足等による受注不足により、上半期は苦戦しましたが、下半期に進捗の遅れを取り戻したことにより、前連結会計年度に比べ17百万円増の20億65百万円となりました。「建設・生活関連品事業」は、展示会による動員増等により、前連結会計年度に比べ9百万円増の34億43百万円となりました。「工場設備関連事業」は、主要顧客を中心に受注が増加したこと、また第二工場の稼働率の向上もあり、前連結会計年度に比べ1億39百万円増の6億36百万円となりました。「介護事業」は、デイサービスの介護報酬の減額により、前連結会計年度に比べ28百万円減の4億6百万円となりました。「IT関連事業」は受託開発の受注が減少し、前連結会計年度に比べ30百万円減の3億16百万円となりました。

### 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、原価圧縮に努め、前連結会計年度に比べ54百万円減の77億37百万円となりました。売上高に対する売上原価の比率は、0.7ポイント減少して76.7%となっております。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ1億19百万円増の22億53百万円となりました。増減額の内訳は、人件費が66百万円増、事業税等が8百万円増、旅費交通費が9百万円増などです。売上高に対する販売費及び一般管理費の比率は、22.3%と前連結会計年度に比べ1.1ポイント増加しております。

### 営業利益

営業利益は、売上総利益が85百万円増加したものの、人件費を中心とした販売費及び一般管理費の増加により、前連結会計年度に比べ34百万円減少し1億2百万円となりました。

### 営業外収益、営業外費用

営業外収益は、前連結会計年度の59百万円から当連結会計年度は65百万円となりました。営業外費用は、前連結会計年度の13百万円から当連結会計年度は8百万円となり、前連結会計年度の46百万円の純収益が当連結会計年度は56百万円の純収益となりました。

### 経常利益

経常利益は、前連結会計年度に比べ24百万円減少し1億58百万円となりました。

### 税金等調整前当期純利益

特別利益は、前連結会計年度において投資有価証券売却益など10百万円を計上しましたが、当連結会計年度は固定資産売却益62百万円、投資有価証券売却益32百万円、合計で94百万円となりました。また特別損失は、前連結会計年度の5百万円から当連結会計年度は0百万円となったことにより、税金等調整前当期純利益は前連結会計年度に比べ65百万円増の2億51百万円となりました。

### 法人税等

法人税等合計は、前連結会計年度に比べ41百万円増の1億68百万円となりました。

### 非支配株主に帰属する当期純損益

前連結会計年度の非支配株主に帰属する当期純損失4百万円から、当連結会計年度は非支配株主に帰属する当期純損失0百万円となりました。

### 親会社株主に帰属する当期純利益

この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に比べ、20百万円増加し当連結会計年度は84百万円となりました。

### (3) 流動性及び資金の源泉

#### キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益 2 億51百万円、減価償却費 1 億40百万円等収入の一方で、売上債権の増加額82百万円、法人税等の支払額99百万円等に使用したことで、2 億38百万円の資金獲得（前連結会計年度は 3 億19百万円）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入が取得による支出を15百万円上回ったこと、投資有価証券の売却による収入が取得による支出を37百万円上回ったこと、定期預金の払戻による収入が、預入による支出を18百万円上回ったこと等により獲得した資金は64百万円（前連結会計年度は資金使用 1 億52百万円）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出が長期借入れによる収入を 1 億63百万円上回ったこと、短期借入金の純減少額39百万円、配当金の支払額55百万円、自己株式の取得44百万円等により使用した資金は 3 億14百万円（前連結会計年度は84百万円）となりました。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度から21百万円減少し、10億40百万円となりました。

#### 資金需要

当社グループの運転資金のうち主なものは、材料・商品の購入の他、製造費、完成工事費用、販売費及び一般管理費等の営業費用によるものであります。営業費用の主なものは人件費及び荷造・運搬費、通信費、家賃等の設備費用であります。

#### 財務政策

当社グループは現在、運転資金及び設備投資資金につきましては、自己資金又は銀行借入れにより資金調達することとしております。借入れによる資金調達に関しては、原則として運転資金については期限が 1 年以内の短期借入金で、設備投資資金については固定金利の長期借入金で調達しております。当連結会計年度においてグループ全体の所要資金として、金融機関より長期借入金として 2 億40百万円の調達を実施しました。この結果、当連結会計年度末の短期借入金の残高は前連結会計年度末より 1 億 3 百万円減少し 4 億64百万円、長期借入金の残高は前連結会計年度末より99百万円減少し 5 億93百万円となり合計10億57百万円（前連結会計年度末は12億59百万円）となっております。

当社グループは、健全な財政状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力及び不動産の担保余力等により当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金及び設備投資資金を調達することが可能と考えております。なお、本記載は平成29年 3 月末日時点における将来予測であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、省力化、合理化及び投資効率を総合的に勘案して設備投資を行っております。当連結会計年度の設備投資は全体では、生産設備の取得等を中心に197,642千円を行い、資金については自己資金等により充たいたしました。

切削機具事業においては、機械類の取得等及び当社新製品の金型の取得等に114,222千円の設備投資を実施しました。

特殊工事業においては、工具類の更新等に15,990千円の設備投資を実施しました。

介護事業においては、障がい者デイサービス施設の器具備品等に34,841千円の設備投資を実施しました。

なお、記載金額には消費税等を含めておりません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループは、同一事業所で多種の事業を営んでおり、その設備の状況をセグメントごとの数値とともに主たる設備の状況を開示する方法によっております。

当連結会計年度末における状況は、次のとおりであります。

##### (1) セグメント内訳

(平成29年3月31日現在)

セグメントの名称	帳簿価額(単位:千円)					従業員数 (人)
	建物及び 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
切削機具事業	298,237	176,722	1,529,096 (5,930)	40,845	2,044,900	145 (7)
特殊工事業	112,507	4,179	432,529 (4,337)	20,917	570,131	88 (4)
建設・生活関連品事業	638,546	1,175	1,674,581 (13,606)	9,690	2,323,992	76 (3)
工場設備関連事業	47,147	85,016	-	4,252	136,415	33 (8)
介護事業	52,158	-	-	6,132	58,290	49 (39)
IT関連事業	716	-	3 (345)	211	930	45 (2)
小計	1,149,311	267,092	3,636,210 (24,218)	82,045	5,134,658	436 (63)
全社資産	73,784	-	50,965 (792)	16,416	141,165	14 (-)
合計	1,223,095	267,092	3,687,174 (25,010)	98,461	5,275,822	450 (63)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具・器具及び備品であります。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の( )内は臨時雇用者数であり、外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

(平成29年3月31日現在)

事業所名 (主な所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
発研グループ (東京都江戸川区 他)	切削機具 事業	販売設備	122,427	-	1,049,223 (2,963)	7,052	1,178,702	67 (5)
工事グループ (広島市西区他)	特殊工事 事業	販売設備	92,529	6,572	385,207 (2,474)	12,116	496,423	50 (4)
販売グループ (広島市西区他)	建設・生 活関連品 事業	販売設備	138,555	-	526,525 (4,836)	7,478	672,558	66 (2)
S/Dグループ (広島市佐伯区)	切削機具 事業	製品・商品 管理 配送設備	40,950	0	173,750 (991)	1,772	216,472	9 (1)
技術製造部 (広島市佐伯区)	切削機具 事業	製造設備 特注機開発 設備	69,400	1,639	306,123 (1,976)	13,186	390,348	20 (-)
不動産賃貸 (広島市西区他)	建設・生 活関連品 事業	施設賃貸設 備	499,990	1,175	1,148,056 (8,770)	2,071	1,651,293	- (-)
本社 (広島市西区)	建設・生 活関連品 事業	商品・製品 管理 購買設備	73,784	-	50,965 (792)	16,416	141,165	24 (1)
	全社資産	統轄・管理 設備						

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具・器具及び備品であります。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

(3) 国内子会社の状況

(平成29年3月31日現在)

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
北斗電気工業(株)	広島県呉市	工場設備関連事業	製造・販売設 備	47,174	85,111	-	4,252	136,536	33 (8)
(株)サンライフ	広島市西区	介護事業	介護施設・設 備	52,158	-	-	6,132	58,290	49 (39)
(株)デンサン	広島市南区	IT関連事業	ソフトウェア 開発設備	716	-	3 (345)	211	930	45 (2)
山陰建設サービ ス(株)	鳥取県米子市	特殊工事業	販売設備	13,935	286	47,321 (1,863)	7,277	68,819	28 (-)
建設サービス島 根(株)	島根県松江市	特殊工事業	販売設備	6,043	-	-	2,072	8,115	7 (-)

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具・器具及び備品であります。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

(4) 在外子会社の状況

(平成29年3月31日現在)

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械及び 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
祥建企業股份有 限公司	台湾新北市	切削機具事業 特殊工事業 建設・生活関連品 事業	販売設備	-	-	-	990	990	9 (-)
南通康賽克工程 工具有限公司	中華人民共和国 南通市	切削機具事業	製造・販売設 備	59,154	-	-	6,706	65,860	22 (-)
南通康賽克半導 体工具有限公司	中華人民共和国 南通市	切削機具事業	製造・販売設 備	6,306	117,245	-	12,156	135,707	21 (1)

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具・器具及び備品であります。  
なお、金額には消費税等を含めておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,600,000
計	28,600,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,640,112	18,640,112	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	18,640,112	18,640,112	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成21年7月31日 (注)	-	18,640,112	-	4,090,270	1,000,000	2,551,970

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振替えたものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	9	19	62	9	1	1,616	1,716	-
所有株式数(単元)	-	2,060	306	4,180	655	19	11,291	18,511	129,112
所有株式数の割合(%)	-	11.13	1.65	22.58	3.54	0.10	61.00	100	-

(注) 1. 自己株式695,180株は「個人その他」に695単元及び「単元未満株式の状況」に180株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が9単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本鉱泉株式会社	広島市安佐南区緑井6丁目24番22号	2,692	14.44
佐々木 秀隆	広島市安佐南区	2,020	10.84
コンセック従業員持株会	広島市西区商工センター四丁目6番8号	700	3.76
株式会社コンセック	広島市西区商工センター四丁目6番8号	695	3.73
株式会社もみじ銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	広島市中区胡町1番24号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	583	3.13
株式会社ライフステージやまと	広島市中区中町3-11	485	2.60
コンセック役員持株会	広島市西区商工センター四丁目6番8号	454	2.44
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	434	2.33
山戸 通彰	広島市西区	432	2.32
朝日生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町2丁目6-1 (東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海トリトンスクエアタワーZ)	314	1.68
計	-	8,809	47.27

(注) 1. 株式会社コンセックの所有株式695千株は、議決権を有していません。

2. 所有株式数(千株)については、単位未満を切り捨てております。

( 8 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 695,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,816,000	17,807	-
単元未満株式	普通株式 129,112	-	1単元(1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	18,640,112	-	-
総株主の議決権	-	17,807	-

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が9,000株含まれております。なお、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数9個が含まれておりません。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社コンセック	広島市西区商工センター四丁目6番8号	695,000	-	695,000	3.73
計	-	695,000	-	695,000	3.73

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】  
該当事項はありません。



## 2【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

#### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年12月7日)での決議状況 (取得期間 平成28年12月8日～平成28年12月8日)	300,000	44,700,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	293,000	43,657,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	7,000	1,043,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	2.3	2.3
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	2.3	2.3

(注)東京証券取引所における自己株式立会外買付取引(T o S T N e T - 3)による取得であります。

#### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,460	221,460
当期間における取得自己株式	100	15,300

(注)当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

#### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	695,180	-	695,280	-

(注)1.当期間における処理自己株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2.当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は安定配当を最重要課題として位置付けており、企業体質の強化を図りながら業績に応じた適正なる成果の配分を行うことを基本方針とし、配当性向につきましては年間30%を目安としております。

内部留保資金につきましては、財務の健全性を維持するとともに顧客ニーズの多様性に対処する技術開発投資、並びに積極的な事業展開のための資金に充当し、永続的な成長を継続する経営基盤の確立を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議をもって中間配当金として剰余金の配当を行うことができる。」旨を定款に定めており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、当期純利益42,713千円となりましたが、期末配当については1株当たり3円の配当を実施することを決定しました。また、中間配当は行っておりません。この結果、配当性向は127.7%となります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年6月29日 定時株主総会決議	53,835	3.00

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	124	150	450	263	195
最低(円)	85	94	124	128	125

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	167	161	162	165	165	161
最低(円)	147	143	147	156	155	150

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 9名 女性 -名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		佐々木 秀隆	昭和3年7月9日生	昭和47年11月 日本鉱業(株)設立代表取締役社長(現任) 平成13年6月 祥建企業股份有限公司董事長に就任(現任) 平成13年6月 当社代表取締役社長に就任 平成23年6月 代表取締役会長に就任 平成25年6月 代表取締役会長兼社長に就任 平成27年6月 代表取締役会長に就任(現任)	(注)3.	2,020
取締役社長	事業本部 統括部長	福田 多喜二	昭和31年1月7日生	平成2年10月 北斗電気工業株式会社入社 平成6年4月 同社取締役 平成11年10月 同社代表取締役社長 平成14年6月 当社取締役に就任 平成17年9月 取締役第二事業本部長委嘱 平成25年6月 専務取締役に就任、事業本部統括部長委嘱 平成27年4月 北斗電気工業株式会社代表取締役会長に就任(現任) 平成27年6月 取締役社長に就任、事業本部統括部長委嘱(現任)	(注)3.	12
常務取締役	第二事業 本部長	三中 達雄	昭和27年1月28日生	昭和54年9月 莞研株式会社(現 株式会社コンセック)入社 平成10年4月 当社技術部長 平成12年10月 執行役員技術製造部長 平成19年6月 取締役に就任、技術製造部長委嘱 平成25年6月 常務取締役に就任、第二事業本部長委嘱(現任)	(注)3.	14
取締役	管理本部 長	寺本 泰之	昭和27年2月5日生	昭和53年11月 当社入社 平成21年6月 管理部長 平成22年6月 執行役員管理部長 平成24年6月 取締役に就任、管理本部長委嘱(現任)	(注)3.	2
取締役	山陰建設 サービス株 式会社担当	原田 文栄	昭和23年11月5日生	平成12年7月 当社入社総合経営企画室長 平成12年10月 執行役員総合経営企画室長 平成16年4月 執行役員管理部長 平成19年6月 取締役に就任、管理部長委嘱 平成21年6月 取締役管理本部長委嘱 平成24年6月 常勤監査役に就任 平成25年6月 取締役に就任、山陰建設サービス株式会 社担当委嘱(現任)	(注)3.	21
取締役		藤原 光広	昭和28年1月28日生	平成24年7月 広島国税局徴収部長 平成25年9月 税理士登録 平成25年9月 藤原光広税理士事務所開設、所長(現任) 平成26年6月 当社取締役に就任(現任)	(注)3.	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		竹本 敏範	昭和23年 8月23日生	平成13年11月 当社入社管理本部電算室長 平成19年 2月 日本鉱泉株式会社入社 平成21年 7月 同社取締役(現任) 平成25年 6月 当社監査役に就任 平成28年 6月 常勤監査役に就任(現任)	(注)4.	6
監査役		長井 紳一郎	昭和53年 6月19日生	平成16年10月 弁護士登録 平成16年10月 山下法律事務所(現山下・長井法律事務所)入所(現任) 平成24年 6月 当社監査役に就任(現任)	(注)4.	-
監査役		廣本 邦幸	昭和14年10月22日生	昭和53年 5月 株式会社紀商設立代表取締役社長 平成20年 6月 当社監査役に就任 平成25年 2月 株式会社紀商取締役(現任) 平成25年 6月 常勤監査役に就任 平成28年 6月 監査役(非常勤)に就任(現任)	(注)4.	-
計						2,075

- (注) 1. 取締役 藤原 光広は、社外取締役であります。  
2. 監査役 長井 紳一郎及び廣本 邦幸は、社外監査役であります。  
3. 当該取締役の任期は、平成29年 6月29日開催の定時株主総会の終結の時から 2年間  
4. 当該監査役の任期は、平成28年 6月29日開催の定時株主総会の終結の時から 4年間  
5. 所有株式数(千株)については、単位未満を切り捨てております。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) 企業の統治体制

当社は企業経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体質と永続的な収益体質の確立をもって社会に貢献することを目指しております。その実現のために経営管理機能の充実と健全な業務執行体制を確保し、経営の透明性の向上を図ることにより、株主及びステークホルダーの信頼を得ることをコーポレート・ガバナンスにおける基本的な考え方としております。

#### 企業統治体制の概況

当社の取締役会は十分な議論と迅速な意思決定が可能な6名（内1名は社外取締役）の取締役により運営され、基本方針、重要事項の決定を行うとともに、取締役会とは別に取締役、執行役員（2名）等による経営会議を開催するほか、全役員と各部門の管理職を対象にした幹部会を開催し、経営方針の確認と問題点の把握を徹底し内部管理体制の共通認識を高めております。また、代表取締役直轄のコンプライアンス委員会を設け各部門の業務執行が法令、定款及び社内規定等に違反することがないように内部統制の意識向上を図っております。

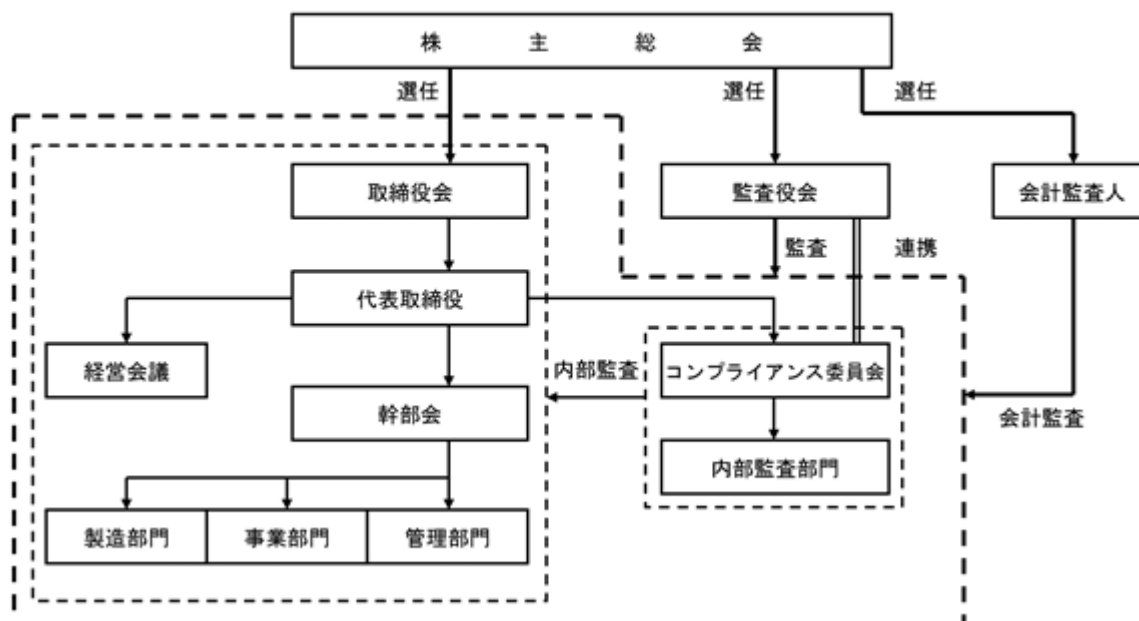
当社は監査役会制度（3名、内2名は社外監査役）を採用し、監査役は取締役会をはじめ、経営会議や幹部会など会社の重要な会議に出席し業務執行の適法性を厳正に監視すると共に内部監査部門のコンプライアンス委員会と連携して内部牽制機能の実効性を監視しております。

#### 企業統治の体制を採用する理由

当社は現在の会社規模、業容等を勘案し社外取締役を1名選任しております。また、常勤監査役1名及び社外監査役2名による監査役会制度を採用しており、経営監視機能の客観性、中立性を確保しております。

当社のコーポレート・ガバナンスの体制図は以下のとおりであります。

当社コーポレート・ガバナンスの体制図



#### 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムといたしましては、全役員が業務分掌規程や職務権限規程に基づき、職務を遂行すると共に内部監査部門がその業務遂行状況を監視し、随時必要な内部監査を実施しております。また管理部門においては総務部・管理部を組織化し、それぞれ内部規程に基づく管理・統制を行い各事業部とグループ会社に対して合理的な牽制機能の実施体制を構築しております。また、品質マネジメントシステムを導入し、定期的に品質管理委員会を開催し、品質の維持向上を図ると共に社長による品質マネジメントの検証、有効性の確認を行っております。

#### リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は社長を責任者として、個人情報管理対策委員会などを組織し、担当取締役を中心に各部門長からなる幹部会によって、各種法令のコンプライアンス状況の点検・確認並びにリスク管理状況をチェックしております。なお、コンプライアンス、環境、災害、品質及び情報セキュリティ等に係るリスクについては、それぞれの担当部署にて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配布等を行うものとし、組織的横断的リスク状況の監視及び全社対応はコンプライアンス委員会が行っております。

#### 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社の子会社の業務の適正を確保するため、グループ会社ごとに、責任を負う取締役を任命し、法令遵守体制、リスク管理体制を構築する権限と責任を与えており、コンプライアンス委員会はこれらを横断的に推進し、管理しております。

### (2) 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査部門（3名）はコンプライアンス委員会の1部門として、各事業部とグループ会社に対し、監査チェックリストに基づき関係者へのヒアリングを行うなど業務執行状況やコンプライアンス状況について随時必要な内部監査を実施し、問題点の報告及び業務改善提案等を行っております。

監査役は現行制度の機能を維持しながら監査役会での議論を通じて、監視機能の強化に取り組むと共に、取締役会など会社の重要な会議に出席し適宜、意見の陳述を行うなどして取締役の業務執行・企業経営について厳正な監視を行っております。また、会計監査人は、監査を効率的に実施する観点から、監査役及び社内関連部門等と連携しつつ、内部統制の状況等について把握するとともに、その有効性を評価し、監査役会へ報告しております。

### (3) 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は藤原光広氏の1名、社外監査役は長井紳一郎氏及び廣本邦幸氏の2名であります。

#### イ 社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針

当社は、社外取締役及び社外監査役による外部からの経営監視機能の客観性、中立性を確保するための機能が重要と考えております。また、当社は社外取締役、社外監査役を選任するために、会社法上の要件に加えて、下記に掲げる独自の社外役員の独立性を担保する選任基準である「社外役員の資格要件」を監査役会の同意を得て策定し、これに基づき選考しているため、社外取締役、社外監査役の独立性は十分に保たれていると判断しております。

#### （社外役員の資格要件）

社外役員本人および本人が帰属する企業・団体と当社グループとの間に、下記の資格要件を設ける。

社外役員候補に指名される前に一度でも、当社グループの役員（社外役員を除く）、執行役員、社員、会計監査人の代表社員であったことがないこと。

当社グループの大株主（総議決権の10%以上の株式を保有する者）、もしくは当社グループが大株主の役員・執行役員または社員でないこと。

当社グループの主要な取引先企業の役員、執行役員または社員でないこと。

当社グループからの役員報酬以外に、多額の金銭その他の財産（年間1,000万円以上）を得ている者でないこと。

当社グループの役員、執行役員と親族関係（3親等以内）にないこと。

当社グループとの間で、役員、執行役員を相互に派遣していないこと。

株式会社コンセックの一般株主全体との間で恒常的に実質的な利益相反の生じるおそれがないこと。

その他、当社グループとの間に利害関係を有し、社外役員としての職務を遂行する上で、独立性に疑義がないこと。

（注）主要な取引先とは、当社グループとの取引において、取引額が連結売上額の2%以上を占めている企業とする。

#### ロ 社外取締役及び社外監査役の機能・役割、選任状況についての考え方

現在、藤原光広氏、長井紳一郎氏、廣本邦幸氏を独立役員に指名しております。なお、取締役又は社員は、社外監査役に対して法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス内部通報システムによる通報状況等を速やかに報告することとし、社外監査役は、取締役会をはじめ、経営会議や幹部会など会社の重要な会議に出席し業務執行の適法性を厳正に監視すると共に内部牽制機能の実効性を監視しております。また、会計監査においては外部の会計監査人と連携し主要な事務所への往査等とおして実効性を高め厳正なる監査を行っております。

当社は取締役6名のうち1名を社外取締役とする取締役会に対し、監査役3名のうち2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。企業統治において外部からの客観性、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役による監督、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っていると認識しております。

#### ハ 社外取締役及び社外監査役が兼職する他の法人等との関係

社外取締役の藤原光広氏は、藤原光広税理士事務所の所長であります。また、同氏はアクト中食株式会社の社外取締役であります。当社と藤原光広税理士事務所及びアクト中食株式会社との間には特別の取引関係はありません。

社外監査役の長井紳一郎氏は、山下・長井法律事務所の副所長であります。また、同氏は、株式会社オービスの社外監査役であります。当社と山下・長井法律事務所及び株式会社オービスの間には特別の取引関係はありません。また、同氏は株式会社もみじ銀行の顧問であります。当社と株式会社もみじ銀行の間には預金取引、借入取引があります。

社外監査役の廣本邦幸氏は、株式会社紀商の取締役であります。当社と株式会社紀商の間には特別の取引関係はありません。

#### (4) 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	73,270	64,800	-	-	8,470	5
監査役 (社外監査役を除く。)	5,175	4,800	-	-	375	1
社外役員	6,900	6,750	-	-	150	3

(注) 上記、「退職慰労金」の額は、当事業年度に係る退職慰労金の引当金繰入額であります。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、取締役と監査役に区分して株主総会において定められた総額の範囲内において各役員に配分するものとし、その配分は職務、資格等を勘案して取締役会において決定します。また、監査役は監査役会の協議の上、決定します。

(5) 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区 分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)				
	貸借対照表 計上額の 合計額	貸借対照表 計上額の 合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額	
					含み損益	減損処理額
非上場株式	-	-	-	-	-	-
上記以外の株式	705,933	721,008	16,371	30,943	-	-

(6) 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 松嶋 敦	有限責任監査法人トーマツ
指定有限責任社員 中原 晃生	有限責任監査法人トーマツ

会計監査業務に係る補助者の構成 公認会計士 4名  
その他 7名

(7) 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

(8) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決数の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

(9) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(10) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(11) 中間配当について

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。



( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,000	-	20,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	20,000	-	20,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の連結財務諸表及び第50期事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構及び監査法人等の行う研修に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,197,192	1,155,089
受取手形及び売掛金	2,329,024	2,402,913
商品及び製品	926,430	896,719
仕掛品	27,350	30,180
原材料及び貯蔵品	294,992	304,024
繰延税金資産	50,199	53,762
その他	132,736	90,913
貸倒引当金	4,642	6,584
流動資産合計	4,953,279	4,927,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,011,265	3,816,171
減価償却累計額	2,681,015	2,593,076
建物及び構築物(純額)	1,330,250	1,223,095
機械及び装置	439,544	536,118
減価償却累計額	242,459	269,026
機械及び装置(純額)	197,085	267,092
土地	1,375,615	1,368,714
その他	941,284	958,570
減価償却累計額	848,078	860,109
その他(純額)	93,207	98,461
有形固定資産合計	5,376,556	5,275,822
無形固定資産		
のれん	1,234	542
その他	33,175	34,313
無形固定資産合計	34,409	34,855
投資その他の資産		
長期預金	37,123	33,562
投資有価証券	819,615	842,527
退職給付に係る資産	30,473	88,210
繰延税金資産	73,475	44,609
その他	2,332,242	2,335,402
貸倒引当金	44,103	39,756
投資その他の資産合計	1,248,826	1,304,554
固定資産合計	6,659,791	6,615,231
資産合計	11,613,070	11,542,247

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,787,907	1,769,627
短期借入金	1,566,359	1,463,823
未払法人税等	57,212	137,724
賞与引当金	88,712	88,242
完成工事補償引当金	211	324
その他	199,730	266,233
流動負債合計	2,700,131	2,725,973
固定負債		
長期借入金	1,692,632	1,593,238
役員退職慰労引当金	50,000	66,819
退職給付に係る負債	424,401	423,462
その他	44,350	40,520
固定負債合計	1,211,383	1,124,038
負債合計	3,911,514	3,850,011
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,090,270	4,090,270
資本剰余金	2,631,794	2,644,823
利益剰余金	698,448	727,557
自己株式	57,201	101,291
株主資本合計	7,363,311	7,361,360
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	146,651	167,891
為替換算調整勘定	104,475	70,736
退職給付に係る調整累計額	114,828	64,349
その他の包括利益累計額合計	136,297	174,277
非支配株主持分	201,948	156,599
純資産合計	7,701,556	7,692,236
負債純資産合計	11,613,070	11,542,247

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	10,060,830	10,092,021
売上原価	1, 3 7,791,242	1, 3 7,737,368
売上総利益	2,269,587	2,354,653
販売費及び一般管理費	2, 3 2,134,139	2, 3 2,252,921
営業利益	135,448	101,731
営業外収益		
受取利息	6,424	5,531
受取配当金	15,480	16,831
受取手数料	8,088	7,232
受取家賃	12,336	12,165
為替差益	1,911	12,834
その他	14,601	10,079
営業外収益合計	58,840	64,673
営業外費用		
支払利息	8,454	6,067
手形売却損	164	268
支払報酬	2,200	-
その他	1,736	2,148
営業外費用合計	12,554	8,482
経常利益	181,735	157,922
特別利益		
固定資産売却益	4,708	4,622,264
投資有価証券売却益	9,438	31,635
特別利益合計	10,146	93,899
特別損失		
固定資産除売却損	5,844	5,405
投資有価証券評価損	1,732	-
特別退職金	2,508	-
特別損失合計	5,084	405
税金等調整前当期純利益	186,797	251,417
法人税、住民税及び事業税	84,852	167,957
法人税等調整額	42,355	85
法人税等合計	127,206	168,042
当期純利益	59,590	83,375
非支配株主に帰属する当期純損失( )	4,045	452
親会社株主に帰属する当期純利益	63,635	83,827

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	59,590	83,375
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45,656	24,632
為替換算調整勘定	28,617	55,770
退職給付に係る調整額	72,259	50,479
その他の包括利益合計	146,532	19,341
包括利益	86,942	102,716
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	69,261	121,808
非支配株主に係る包括利益	17,680	19,092

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,090,270	2,613,418	689,540	56,500	7,336,728
当期変動額					
剰余金の配当			54,727		54,727
親会社株主に帰属する当期純利益			63,635		63,635
連結子会社の増資による持分の増減		18,055			18,055
子会社の自己株式の取得による持分の増減		321			321
自己株式の取得				701	701
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	18,376	8,908	701	26,583
当期末残高	4,090,270	2,631,794	698,448	57,201	7,363,311

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	187,283	124,480	42,570	269,193	239,644	7,845,566
当期変動額						
剰余金の配当						54,727
親会社株主に帰属する当期純利益						63,635
連結子会社の増資による持分の増減	776			776	18,832	-
子会社の自己株式の取得による持分の増減	15			15	661	325
自己株式の取得						701
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	41,424	20,005	72,259	133,688	18,204	151,892
当期変動額合計	40,633	20,005	72,259	132,896	37,697	144,010
当期末残高	146,651	104,475	114,828	136,297	201,948	7,701,556

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,090,270	2,631,794	698,448	57,201	7,363,311
当期変動額					
剰余金の配当			54,718		54,718
親会社株主に帰属する当期純利益			83,827		83,827
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		13,029			13,029
自己株式の取得				44,090	44,090
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	13,029	29,109	44,090	1,952
当期末残高	4,090,270	2,644,823	727,557	101,291	7,361,360

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	146,651	104,475	114,828	136,297	201,948	7,701,556
当期変動額						
剰余金の配当						54,718
親会社株主に帰属する当期純利益						83,827
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		1,097		1,097	39,356	25,229
自己株式の取得						44,090
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,240	34,836	50,479	36,883	5,993	30,890
当期変動額合計	21,240	33,739	50,479	37,981	45,349	9,320
当期末残高	167,891	70,736	64,349	174,277	156,599	7,692,236



【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	186,797	251,417
減価償却費	136,025	139,794
のれん償却額	692	692
貸倒引当金の増減額（は減少）	1,620	2,397
賞与引当金の増減額（は減少）	5,705	3
完成工事補償引当金の増減額（は減少）	58	113
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	19,686	16,524
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	47,436	2,621
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	389	16,819
受取利息及び受取配当金	21,904	22,363
支払利息	8,454	6,067
有形固定資産除売却損益（は益）	136	61,859
投資有価証券売却損益（は益）	9,438	31,635
投資有価証券評価損益（は益）	1,732	-
売上債権の増減額（は増加）	278,834	81,542
たな卸資産の増減額（は増加）	83,224	1,993
その他の資産の増減額（は増加）	17,950	35,102
仕入債務の増減額（は減少）	71,452	9,705
未払消費税等の増減額（は減少）	47,849	27,624
その他の負債の増減額（は減少）	18,677	41,893
小計	394,559	321,927
利息及び配当金の受取額	20,514	21,091
利息の支払額	8,242	5,922
法人税等の支払額	87,867	98,795
営業活動によるキャッシュ・フロー	318,964	238,301

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	253,108	145,396
定期預金の払戻による収入	220,164	163,674
有形固定資産の取得による支出	136,061	185,021
有形固定資産の売却による収入	708	200,020
有形固定資産の除却による支出	709	189
無形固定資産の取得による支出	4,415	6,624
投資有価証券の取得による支出	56,320	111,309
投資有価証券の売却による収入	77,281	148,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	152,461	63,586
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	96,168	38,935
長期借入金の返済による支出	466,038	402,995
長期借入れによる収入	535,000	240,000
非支配株主への払戻による支出	-	25,229
非支配株主からの払込みによる収入	-	20,000
配当金の支払額	54,727	54,718
非支配株主への配当金の支払額	1,426	8,002
自己株式の取得による支出	701	44,090
子会社の自己株式の取得による支出	325	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	84,385	313,970
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,005	8,867
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	77,113	20,950
現金及び現金同等物の期首残高	983,775	1,060,888
現金及び現金同等物の期末残高	1,060,888	1,039,939

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 8社

子会社は全て連結しております。

連結子会社の名称

祥建企業股份有限公司  
北斗電気工業株式会社  
南通康賽克工程工具有限公司  
南通康賽克半導体工具有限公司  
山陰建設サービス株式会社  
建設サービス島根株式会社  
株式会社サンライフ  
株式会社デンサン

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 1社

関連会社の名称

南通偉秀精密机械有限公司

(2) 持分法適用会社の決算日は連結決算日と異なる12月31日であり、同日現在の財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

祥建企業股份有限公司、南通康賽克工程工具有限公司、南通康賽克半導体工具有限公司及び株式会社サンライフ並びに株式会社デンサンの決算日は12月31日、また、北斗電気工業株式会社、山陰建設サービス株式会社及び建設サービス島根株式会社の決算日は1月31日であります。なお、連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ たな卸資産

主として月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15～39年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

ハ 完成工事補償引当金

完成工事にかかるかし担保に備えるため、過去の実績に基づき計上しております。

ニ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）により均等償却しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定率法によりそれぞれ発生の日連結会計年度から損益処理しております。

ハ 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整のうえ、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事  
工事完成基準

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、5年間の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めていた「未払法人税等」は、負債及び純資産の合計額の100分の1を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示していた256,942千円は、「未払法人税等」57,212千円、「その他」199,730千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
建物及び構築物	705,230千円	614,736千円
土地	2,361,121	2,292,280
計	3,066,351	2,907,016

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
短期借入金	338,948千円	251,174千円
長期借入金	265,927	283,368
計	604,875	534,542

2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資その他の資産その他(出資金)	7,487千円	8,054千円

3 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
受取手形割引高	93,557千円	153,449千円
受取手形裏書譲渡高	10,990	11,789

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に基づく簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
15,263千円	13,204千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
給料手当	818,117千円	840,932千円
賞与引当金繰入額	58,495	57,583
退職給付費用	79,073	86,536
役員退職慰労引当金繰入額	15,493	16,819
貸倒引当金繰入額	3,253	3,351

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
97,503千円	116,011千円

4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械及び装置	400千円	土地 61,809千円
その他(運搬具)	308	建物及び構築物 435
		その他(運搬具) 20
計	708	計 62,264

5 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	778千円	建物及び構築物 254千円
その他(運搬具)	0	その他(運搬具) 0
(工具、器具及び備品)	66	(工具、器具及び備品) 151
計	844	計 405

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	53,363千円	59,236千円
組替調整額	7,706	31,635
税効果調整前	61,070	27,601
税効果額	15,413	2,969
その他有価証券評価差額金	45,656	24,632
為替換算調整勘定：		
当期発生額	28,617	55,770
組替調整額	-	-
税効果調整前	28,617	55,770
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	28,617	55,770
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	115,811	26,351
組替調整額	13,367	46,229
税効果調整前	102,444	72,580
税効果額	30,185	22,101
退職給付に係る調整額	72,259	50,479
その他の包括利益合計	146,532	19,341



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,640,112	-	-	18,640,112
合計	18,640,112	-	-	18,640,112
自己株式				
普通株式(注)	397,617	3,103	-	400,720
合計	397,617	3,103	-	400,720

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加3,103株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	54,727	3	平成27年3月31日	平成27年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	54,718	利益剰余金	3	平成28年3月31日	平成28年6月30日

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	18,640,112	-	-	18,640,112
合計	18,640,112	-	-	18,640,112
自己株式				
普通株式（注）	400,720	294,460	-	695,180
合計	400,720	294,460	-	695,180

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加294,460株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加293,000株、単元未満株式の買取りによる増加1,460株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	54,718	3	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	53,835	利益剰余金	3	平成29年3月31日	平成29年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	1,197,192千円	1,155,089千円
預入期間が3か月を超える定期預金	136,304	115,150
現金及び現金同等物	1,060,888	1,039,939

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金については原則として固定金利の長期借入金（銀行借入）で調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金については期限が一年以内の短期借入金（銀行借入）で調達しております。

(2)金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

長期預金は、1年を超える定期預金であり、期間は最長で3年であります。金利の上昇によるリスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業等の株式並びに債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4か月以内の支払期日であります。

借入金のうち長期借入金については、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済期限は最長で決算日後8年7ヶ月であります。原則、固定金利で調達しているため金利の低下によるリスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門と管理本部が連携し、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために当社は長期借入金の返済期限は、平均5年で調達しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部門からの報告に基づき資金担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

連結子会社においても、当社に準じて流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（（注）2.参照）

前連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,197,192	1,197,192	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,329,024	2,329,024	-
(3) 長期預金	37,123	39,034	1,911
(4) 投資有価証券	819,615	819,615	-
資産計	4,382,953	4,384,864	1,911
(1) 支払手形及び買掛金	1,787,907	1,787,907	-
(2) 短期借入金	566,359	567,221	862
(3) 長期借入金	692,632	694,251	1,619
負債計	3,046,898	3,049,379	2,481

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,155,089	1,155,089	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,402,913	2,402,913	-
(3) 長期預金	33,562	35,111	1,549
(4) 投資有価証券	842,527	842,527	-
資産計	4,434,090	4,435,639	1,549
(1) 支払手形及び買掛金	1,769,627	1,769,627	-
(2) 短期借入金	463,823	464,268	445
(3) 長期借入金	593,238	594,542	1,304
負債計	2,826,688	2,828,437	1,749

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期預金

長期預金の時価は、元利金の合計額を同様の新規預金を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金、(3) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品 (単位:千円)

区分	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
非上場株式	0	0
合計	0	0

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,178,961	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,329,024	-	-	-
長期預金	-	37,123	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	-	-	-	-
合計	3,507,985	37,123	-	-

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,142,656	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,402,913	-	-	-
長期預金	-	33,562	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	-	-	-	-
合計	3,545,569	33,562	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年超2年 以内(千円)	2年超3年 以内(千円)	3年超4年 以内(千円)	4年超5年 以内(千円)	5年超 (千円)
長期借入金	278,159	205,520	119,013	59,680	30,260

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年超2年 以内(千円)	2年超3年 以内(千円)	3年超4年 以内(千円)	4年超5年 以内(千円)	5年超 (千円)
長期借入金	253,708	165,844	104,544	45,771	23,371

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	627,750	382,952	244,798
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	627,750	382,952	244,798
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	83,818	93,929	10,111
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	108,047	135,485	27,439
	小計	191,865	229,415	37,550
合計		819,614	612,367	207,247

(注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額0千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度において、その他有価証券の株式について、減損処理を行い1,732千円を特別損失に計上しております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮し必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	673,635	429,165	244,470
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	7,660	7,150	510
	小計	681,295	436,315	244,980
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	16,837	18,944	2,107
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	144,394	152,420	8,025
	小計	161,232	171,364	10,132
合計		842,527	607,679	234,848

- (注) 1. 非上場株式（連結貸借対照表計上額0千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。
2. 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮し必要と認められた額について減損処理を行っております。



4. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	56,497	9,438	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	56,497	9,438	-

(注) 上表以外に投資信託の払戻し21,583千円（取得原価）があります。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	129,888	31,575	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	3,101	60	-
合計	132,990	31,635	-

(注) 上表以外に投資信託の払戻し14,642千円（取得原価）があります。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

従業員の退職給付に充てるため、当社は確定給付企業年金制度および退職一時金制度（非積立制度）を採用しており、国内連結子会社は、退職一時金制度（非積立制度）および確定拠出型掛金制度として中小企業退職金共済掛金制度等に加入しております。

2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を含む。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,213,491千円	1,314,966千円
勤務費用	61,050	64,588
利息費用	9,543	5,672
数理計算上の差異の発生額	71,606	2,944
退職給付の支払額	40,724	22,945
退職給付債務の期末残高	1,314,966	1,359,337

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	894,257千円	921,038千円
期待運用収益	13,414	13,816
数理計算上の差異の発生額	44,205	23,407
事業主からの拠出額	76,403	77,941
退職給付の支払額	18,830	12,116
年金資産の期末残高	921,038	1,024,086

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	890,565千円	935,875千円
年金資産	921,038	1,024,086
	30,473	88,210
非積立型制度の退職給付債務	424,401	423,462
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	393,928	335,251
退職給付に係る負債	424,401	423,462
退職給付に係る資産	30,473	88,210
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	393,928	335,251

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	61,050千円	64,588千円
利息費用	9,543	5,672
期待運用収益	13,414	13,816
数理計算上の差異の損益処理額	19,169	46,229
過去勤務費用の費用処理額	5,802	-
確定給付制度に係る退職給付費用	70,546	102,673

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

上記の退職給付費用以外に、前連結会計年度は特別退職金を特別損失に2,508千円計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
過去勤務費用	5,802千円	- 千円
数理計算上の差異	96,642	72,580
合 計	102,444	72,580

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識数理計算上の差異	165,102千円	92,522千円
合 計	165,102	92,522

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	23.8%	24.1%
株式	41.8	34.4
一般勘定	31.1	31.6
現金及び預金	0.3	0.3
その他	3.0	9.6
合 計	100.0	100.0

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
割引率		
確定給付企業年金制度	0.5%	0.6%
一時金制度	0.3%	0.3%
長期期待運用収益率	1.5%	1.5%
予想昇給率	1.0～3.68倍	1.0～3.70倍
一時金選択率	50.0%	50.0%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
	17,323千円	17,576千円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	25,722千円	25,086千円
未払事業税	5,583	11,412
たな卸資産評価損	25,687	27,423
連結会社間内部利益消去	13,130	12,830
貸倒引当金	11,934	11,727
役員退職慰労引当金	16,063	20,589
退職給付に係る負債	120,772	102,251
固定資産減損損失	154,138	152,167
税務上の繰越欠損金	195,278	178,923
その他	58,120	53,401
繰延税金資産小計	626,428	595,809
評価性引当額	437,645	429,511
繰延税金資産合計	188,783	166,298
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	64,959	67,928
その他	675	385
繰延税金負債合計	65,634	68,313
繰延税金資産の純額	123,149	97,985

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	50,199千円	53,762千円
固定資産 - 繰延税金資産	73,475	44,609
流動負債 - 繰延税金負債	3	2
固定負債 - 繰延税金負債	521	383

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.8%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6	2.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.5	0.4
住民税均等割	17.6	13.1
評価性引当額に係る項目	15.3	11.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.1	-
過年度法人税、住民税及び事業税	-	8.5
その他	1.8	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	68.1	66.8

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社は、広島市その他の地域において、賃貸用の事務所(土地を含む)等を有しております。平成28年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸利益は19,838千円(賃貸収益は営業収益に、これに対応する減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等賃貸費用は営業費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
1,845,822	28,117	1,817,705	1,304,694

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社は、広島市その他の地域において、賃貸用の事務所(土地を含む)等を有しております。平成29年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸利益は13,612千円(賃貸収益は営業収益に、これに対応する減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等賃貸費用は営業費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
1,817,705	389,838	1,427,867	1,094,266

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度増減額の内容は、主として不動産売却等によるものであります。

3. 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。海外子会社は当社事業部に附随して事業活動を行っております。

国内子会社は、それぞれ独立した事業を行っており、当社取締役が、各子会社の取締役を兼務して取り扱う製品・サービスについて戦略を立案し、事業活動を行っております。

したがって、当社グループは、事業部及び国内子会社の事業を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「切削機具事業」、「特殊工事業」、「建設・生活関連品事業」、「工場設備関連事業」、「介護事業」及び「IT関連事業」の6つを報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は以下のとおりであります。

報告セグメント	主要製品及びサービス
切削機具事業	コアドリル、ウォールカッター、ダイヤモンドコアビット、自動送り装置、消散弁等の製造販売
特殊工事業	アンカー工事、ダイヤモンド穿孔・切断工事、ワイヤーソー工事等の特殊工事
建設・生活関連品事業	コンクリートアンカー類、コンプレッサー、グラインダー、物置、カーポート等の仕入販売
工場設備関連事業	自動制御盤・配電盤・製缶・精密板金加工等の製造販売
介護事業	デイサービス、ケアプランサービス、介護付有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅
IT関連事業	ソフトウェア成果物、人材派遣

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメント利益は、営業利益であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						
	切削機具事業	特殊工事業	建設・生活 関連品事業	工場設備 関連事業	介護事業	I T関連事業	合計
売上高							
外部顧客への売上高	3,302,289	2,048,330	3,433,354	496,944	433,701	346,213	10,060,830
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,911	-	30,699	34,088	-	2,688	81,386
計	3,316,200	2,048,330	3,464,053	531,031	433,701	348,900	10,142,215
セグメント利益 又は損失（ ）	261,122	156,428	108,532	27,778	37,760	3,147	463,691
セグメント資産	4,076,136	1,119,314	3,666,745	485,004	292,073	111,104	9,750,376
その他の項目							
減価償却費	53,588	19,704	39,665	12,448	2,165	1,279	128,849
のれんの償却額	-	542	-	-	-	150	692
持分法投資利益	776	-	-	-	-	-	776
持分法適用会社への 投資額	7,487	-	-	-	-	-	7,487
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	26,590	4,901	4,029	97,237	178	3,935	136,869

当連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント						
	切削機具事業	特殊工事業	建設・生活 関連品事業	工場設備 関連事業	介護事業	I T関連事業	合計
売上高							
外部顧客への売上高	3,226,671	2,065,353	3,442,501	635,823	405,849	315,824	10,092,021
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,179	-	33,159	25,363	-	4,331	75,033
計	3,238,849	2,065,353	3,475,660	661,186	405,849	320,156	10,167,053
セグメント利益 又は損失（ ）	236,283	162,911	71,265	22,522	43,428	7,476	457,030
セグメント資産	4,377,085	1,142,989	3,302,963	558,376	297,368	73,442	9,752,223
その他の項目							
減価償却費	51,956	19,100	38,096	18,625	3,429	1,457	132,663
のれんの償却額	-	542	-	-	-	150	692
持分法投資利益	660	-	-	-	-	-	660
持分法適用会社への 投資額	8,054	-	-	-	-	-	8,054
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	114,222	15,990	9,319	14,013	34,841	-	188,385



4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)  
(単位:千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	10,142,215	10,167,053
セグメント間取引消去	81,386	75,033
連結財務諸表の売上高	10,060,830	10,092,021

(単位:千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	463,691	457,030
セグメント間取引消去	17,401	17,558
全社費用(注)	310,841	337,740
連結財務諸表の営業利益	135,448	101,731

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	9,750,376	9,752,223
全社資産(注)	1,862,694	1,790,024
連結財務諸表の資産合計	11,613,070	11,542,247

(注)全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社関連資産であります。

(単位:千円)

その他の項目(減価償却費)	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	128,849	132,663
全社費用(注)	7,176	7,131
連結財務諸表の計上額合計	136,025	139,794

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社関連償却資産に係る減価償却費であります。

(単位:千円)

その他の項目(有形固定資産及び無形固定資産の増加額)	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	136,869	188,385
全社資産(注)	-	9,257
連結財務諸表の計上額合計	136,869	197,642

(注)全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社関連資産であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	穿孔切断機器 及び関連機具	ダイヤモンド 切削消耗品	特殊工事	建設工具、 資材	その他	合 計
外部顧客への売上高	2,351,678	950,611	2,048,330	3,090,126	1,620,085	10,060,830

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	穿孔切断機器 及び関連機具	ダイヤモンド 切削消耗品	特殊工事	建設工具、 資材	その他	合 計
外部顧客への売上高	2,261,012	965,658	2,065,353	3,123,897	1,676,099	10,092,021

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	切削機具事業	特殊工事業	建設・生活 関連品事業	工場設備 関連事業	介護事業	I T関連事業	合 計
当期償却額	-	542	-	-	-	150	692
当期末残高	-	1,084	-	-	-	150	1,234

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	切削機具事業	特殊工事業	建設・生活 関連品事業	工場設備 関連事業	介護事業	I T関連事業	合 計
当期償却額	-	542	-	-	-	150	692
当期末残高	-	542	-	-	-	-	542

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

関連当事者との取引

- 1．連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。

2．連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	福田多喜二	—	-	当社取締役	被所有 直接0.0	被債務保証	被債務保証 (注)	18,000	-	—

(注) 連結子会社、北斗電気工業(株)の銀行借入金18,000千円に対し、個人保証を行っております。なお、以前より保証料の支払はありません。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

関連当事者との取引

- 1．連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。

2．連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

項目	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	411円 18銭	419円 93銭
1株当たり当期純利益金額	3円 49銭	4円 62銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (千円)	63,635	83,827
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	63,635	83,827
期中平均株式数(千株)	18,240	18,147
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	176,411	137,476	0.479	-
1年以内に返済予定の長期借入金	389,948	326,347	0.555	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	692,632	593,238	0.413	平成30年～37年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,258,991	1,057,061	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金の連結決算日後5年内の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	253,708	165,844	104,544	45,771

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,237,221	4,768,336	7,408,472	10,092,021
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額(千円)	36,530	50,632	161,339	251,417
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	7,152	1,666	58,646	83,827
1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	0.39	0.09	3.22	4.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額( ) (円)	0.39	0.30	3.14	1.40

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	783,779	657,616
受取手形	778,338	779,838
売掛金	1,197,841	1,274,033
完成工事未収入金	108,942	148,230
商品及び製品	775,171	732,525
原材料及び貯蔵品	118,215	132,142
前払費用	28,274	25,222
関係会社短期貸付金	142,200	160,500
繰延税金資産	32,762	38,368
その他	20,510	11,955
貸倒引当金	629	1,741
流動資産合計	3,985,404	3,958,688
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,396,391	3,197,745
減価償却累計額	2,259,408	2,174,150
建物(純額)	1,136,983	1,023,595
構築物	203,339	185,132
減価償却累計額	184,997	171,091
構築物(純額)	18,342	14,041
機械及び装置	105,546	105,546
減価償却累計額	92,855	96,160
機械及び装置(純額)	12,690	9,386
車両運搬具	26,326	33,121
減価償却累計額	18,657	22,371
車両運搬具(純額)	7,668	10,750
工具、器具及び備品	722,404	730,210
減価償却累計額	675,543	680,862
工具、器具及び備品(純額)	46,861	49,348
土地	3,708,690	3,639,849
有形固定資産合計	4,931,235	4,746,970
無形固定資産		
電話加入権	18,322	18,322
ソフトウェア	6,058	8,632
無形固定資産合計	24,380	26,954

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	705,933	721,008
関係会社株式	140,403	140,403
出資金	23,920	16,370
関係会社出資金	301,073	406,302
従業員に対する長期貸付金	2,457	3,925
関係会社長期貸付金	100,540	125,040
保険積立金	61,753	65,234
前払年金費用	121,304	123,924
長期前払費用	778	5,477
破産更生債権等	34,634	31,908
繰延税金資産	3,830	5,537
その他	39,324	39,194
貸倒引当金	60,071	89,242
投資その他の資産合計	1,475,877	1,595,081
固定資産合計	6,431,492	6,369,006
資産合計	10,416,896	10,327,693
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	951,864	942,896
買掛金	550,972	487,659
工事未払金	41,178	55,783
短期借入金	130,000	110,000
1年内返済予定の長期借入金	302,552	231,454
未払金	30,861	32,117
未払法人税等	26,847	125,440
未払消費税等	8,954	35,148
未払費用	11,600	19,746
前受金	17,958	5,756
預り金	23,159	24,876
賞与引当金	70,000	68,000
完成工事補償引当金	211	324
設備関係支払手形	1,583	7,581
その他	3,661	5,065
流動負債合計	2,171,401	2,151,844
<b>固定負債</b>		
長期借入金	487,281	445,827
退職給付引当金	332,194	349,242
役員退職慰労引当金	30,140	39,135
その他	24,308	22,082
固定負債合計	873,922	856,285
負債合計	3,045,323	3,008,129



(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,090,270	4,090,270
資本剰余金		
資本準備金	2,551,970	2,551,970
その他資本剰余金	61,448	61,448
資本剰余金合計	2,613,418	2,613,418
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	555,910	543,905
利益剰余金合計	555,910	543,905
自己株式	57,201	101,291
株主資本合計	7,202,397	7,146,302
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	169,175	173,262
評価・換算差額等合計	169,175	173,262
純資産合計	7,371,572	7,319,564
負債純資産合計	10,416,896	10,327,693

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
<b>売上高</b>		
商品売上高	4,719,915	4,851,368
製品売上高	1,884,071	1,819,844
完成工事高	1,330,585	1,363,376
不動産賃貸収入	79,341	70,912
売上高合計	8,013,912	8,105,500
<b>売上原価</b>		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	199,461	205,191
当期商品仕入高	3,922,271	4,060,231
合計	4,121,733	4,265,422
商品他勘定振替高	18,657	44,521
商品期末たな卸高	205,191	206,389
商品売上原価	3,897,885	4,014,512
製品売上原価		
製品期首たな卸高	483,623	569,980
当期製品製造原価	486,389	460,070
当期製品仕入高	697,198	562,726
合計	1,667,210	1,592,776
製品他勘定振替高	13,945	26,606
製品期末たな卸高	569,980	526,135
製品売上原価	1,083,285	1,040,035
完成工事原価	1,228,265	1,214,008
売上原価合計	6,209,434	6,268,554
売上総利益	1,804,477	1,836,946
販売費及び一般管理費	1,687,957	1,803,963
営業利益	116,520	32,982
営業外収益		
受取利息	7,692	7,458
受取配当金	22,129	35,587
受取手数料	7,984	7,068
受取家賃	12,408	12,261
その他	9,189	7,787
営業外収益合計	59,401	70,161
営業外費用		
支払利息	5,543	3,605
貸倒引当金繰入額	-	30,630
その他	1,040	1,692
営業外費用合計	6,583	35,927
経常利益	169,338	67,216

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	62,244
投資有価証券売却益	9,178	30,943
貸倒引当金戻入額	53,092	-
特別利益合計	62,270	93,187
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	820	316
投資有価証券評価損	1,732	-
関係会社株式評価損	149,997	-
特別損失合計	152,549	316
税引前当期純利益	79,059	160,087
法人税、住民税及び事業税	41,958	127,373
法人税等調整額	55,808	9,999
法人税等合計	97,766	117,374
当期純利益又は当期純損失( )	18,707	42,713

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		153,666	12.5	149,517	12.3
労務費		263,068	21.4	262,022	21.6
(うち賞与引当金繰入額)		(14,110)		(12,977)	
外注費		671,218	54.7	613,238	50.5
経費		140,312	11.4	189,230	15.6
(うち減価償却費)		(10,875)		(10,489)	
完成工事原価		1,228,265	100.0	1,214,008	100.0

(原価計算の方法)

決算日における工事進捗度を合理的に見積り、これに応じて当期の工事原価を集計する方法によっております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	4,090,270	2,551,970	61,448	2,613,418	629,345	629,345
当期変動額						
剰余金の配当					54,727	54,727
当期純損失（ ）					18,707	18,707
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	73,435	73,435
当期末残高	4,090,270	2,551,970	61,448	2,613,418	555,910	555,910

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	56,500	7,276,533	187,338	187,338	7,463,870
当期変動額					
剰余金の配当		54,727			54,727
当期純損失（ ）		18,707			18,707
自己株式の取得	701	701			701
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			18,163	18,163	18,163
当期変動額合計	701	74,136	18,163	18,163	92,298
当期末残高	57,201	7,202,397	169,175	169,175	7,371,572

当事業年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	4,090,270	2,551,970	61,448	2,613,418	555,910	555,910
当期変動額						
剰余金の配当					54,718	54,718
当期純利益					42,713	42,713
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	12,006	12,006
当期末残高	4,090,270	2,551,970	61,448	2,613,418	543,905	543,905

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	57,201	7,202,397	169,175	169,175	7,371,572
当期変動額					
剰余金の配当		54,718			54,718
当期純利益		42,713			42,713
自己株式の取得	44,090	44,090			44,090
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			4,087	4,087	4,087
当期変動額合計	44,090	56,095	4,087	4,087	52,008
当期末残高	101,291	7,146,302	173,262	173,262	7,319,564

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として月次総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15～39年

構築物 15～20年

工具、器具及び備品 2～8年

無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事にかかるかし担保に備えるため、過去の実績に基づき計上しております。

#### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

##### イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）により均等償却しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定率法により、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理することとしております。

#### 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### 6. 収益及び費用の計上基準

##### 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

##### イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

##### ロ その他の工事

工事完成基準

#### 7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### イ 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法とは異なっております。

##### ロ 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### （追加情報）

##### （繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。



(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	694,559千円	600,801千円
土地	2,313,799	2,244,958
計	3,008,359	2,845,759

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期借入金	90,000千円	70,000千円
1年内返済予定の長期借入金	232,952	161,854
長期借入金	236,581	264,727
計	559,533	496,581

2 関係会社項目

関係会社に対する資産、負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
流動資産		
受取手形	8,803千円	10,341千円
売掛金	184,165	278,430
流動負債		
支払手形及び買掛金	52,687	23,012

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
関係会社よりの受取利息	3,968千円	3,987千円

2 商品他勘定振替高の内容は、固定資産、完成工事原価並びに販売費及び一般管理費への振替高であります。

3 製品他勘定振替高の内容は、固定資産、完成工事原価並びに販売費及び一般管理費への振替高であります。

4 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度58%、当事業年度58%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度42%、当事業年度42%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
役員報酬	75,510千円	76,350千円
給料手当	684,803	722,362
従業員賞与	53,640	50,894
賞与引当金繰入額	53,687	52,925
福利厚生費	129,345	141,298
退職給付費用	76,529	84,431
役員退職慰労引当金繰入額	11,943	8,995
貸倒引当金繰入額	2,772	2,222
地代家賃	72,123	72,078
減価償却費	67,272	68,741

5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
土地	- 千円	61,809千円
建物	-	435
計	-	62,244

6 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物(建物付属設備)	0千円	39千円
構築物	778	214
工具、器具及び備品	42	62
計	820	316

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 子会社株式(貸借対照表計上額 140,403千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 子会社株式(貸借対照表計上額 140,403千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	21,483千円	20,842千円
未払事業税	3,287	10,150
繰越欠損金	3,476	-
たな卸資産評価損	25,687	27,423
その他	4,516	7,376
計	58,449	65,791
評価性引当額	25,687	27,423
計	32,762	38,368
繰延税金資産(固定)		
貸倒引当金	18,483	27,704
固定資産減損損失	143,344	142,537
退職給付引当金	64,216	68,609
役員退職慰労引当金	9,178	11,917
関係会社株式評価損	131,543	131,543
その他	40,702	40,175
計	407,466	422,485
評価性引当額	339,214	349,840
計	68,251	72,644
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	64,422	67,107
計	64,422	67,107
繰延税金資産の純額	36,591	43,905

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.8%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.5	4.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.8	3.8
住民税均等割	38.5	19.0
評価性引当額に係る項目	45.6	10.0
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	7.5	-
過年度法人税、住民税及び事業税	-	12.8
その他	0.4	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	123.7	73.3

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	3,396,391	4,673	203,319	3,197,745	2,174,150	51,063	1,023,595
構築物	203,339	-	18,208	185,132	171,091	2,230	14,041
機械及び装置	105,546	-	-	105,546	96,160	3,304	9,386
車両運搬具	26,326	6,795	-	33,121	22,371	3,714	10,750
工具、器具及び備品	722,404	23,915	16,109	730,210	680,862	21,366	49,348
土地	3,708,690	-	68,841	3,639,849	-	-	3,639,849
有形固定資産計	8,162,696	35,383	306,477	7,891,602	3,144,633	81,677	4,746,970
無形固定資産							
電話加入権	-	-	-	18,322	-	-	18,322
ソフトウェア	-	-	-	17,012	8,379	2,732	8,632
無形固定資産計	-	-	-	35,333	8,379	2,732	26,954
長期前払費用	778	5,397	698	5,477	-	-	5,477

(注) 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	60,700	59,457	2,673	26,502	90,983
賞与引当金	70,000	68,000	70,000	-	68,000
完成工事補償引当金	211	324	-	211	324
役員退職慰労引当金	30,140	8,995	-	-	39,135

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額その他の欄の金額は、洗替による取崩額であります。  
2. 完成工事補償引当金の当期減少額その他の欄の金額は、洗替による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・売渡し	(注)1.
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。 ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL <a href="http://www.consec.co.jp/">http://www.consec.co.jp/</a>
株主に対する特典	株主優待制度を導入しております。(注)2.

(注)1. 当社定款において、単元未満株主は、次の権利以外の権利を行使することができない旨を定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の売渡請求をする権利

(注)2. 株主優待制度の概要

(1) 目的

当社企業価値の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

(2) 内容及び贈呈基準

3月末日及び9月末日の株主名簿に記載された株主に対し、健康飲料水、ラ・パモントライト及びぶりかけ詰合せを贈呈いたします。

所有株式数	1,000株以上 4,000株未満の株主	ラ・パモントライト	1本及びぶりかけ詰合せ	1セット
	4,000株以上10,000株未満の株主	ラ・パモントライト	2本及びぶりかけ詰合せ	1セット
	10,000株以上の株主	ラ・パモントライト	3本及びぶりかけ詰合せ	1セット

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第49期）（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）平成28年6月29日中国財務局長に提出。
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成28年6月29日中国財務局長に提出。
- (3) 臨時報告書  
平成28年7月1日中国財務局長に提出。  
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (4) 自己株券買付状況報告書  
平成29年1月10日中国財務局長に提出。  
金融商品取引法第24条の6第1項に基づく自己株券買付状況報告書であります。
- (5) 四半期報告書及び確認書  
（第50期第1四半期）（自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）平成28年8月10日中国財務局長に提出。  
（第50期第2四半期）（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）平成28年11月14日中国財務局長に提出。  
（第50期第3四半期）（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）平成29年2月14日中国財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6月21日

株式会社コンセック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松嶋 敦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中原 晃生 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コンセックの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コンセック及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社コンセックの平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社コンセックが平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年 6月21日

株式会社コンセック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松嶋 敦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中原 晃生 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コンセックの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コンセックの平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。